

平成 29 年度「知事と市町長の1対1対談」(御浜町)概要

1 対談時間

平成 29 年 8 月 25 日 (金) 16 時 30 分～17 時 30 分

2 対談場所

御浜町役場 (南牟婁郡御浜町大字阿田和 6120-1)

3 対談市町名

御浜町 (御浜町長 大畑 覚)

4 対談項目

- (1) 近畿自動車道紀勢線 (紀宝 I C (仮称)～熊野市久生屋町) の早期事業化について
- (2) 紀南病院の医師確保について
- (3) 医療費の窓口無料化について

5 対談概要

- (1) 近畿自動車道紀勢線 (紀宝 I C (仮称)～熊野市久生屋町) の早期事業化について

(御浜町長)

紀宝 IC (仮称)～熊野市久生屋町間については、未だ事業化に至っておらず、早期全線開通が、地域全体の悲願です。高速道路は、「繋がってこそネットワーク」であり、地域の防災力を高め、国土強靱化を支えることになると思います。

御浜町としましても、円滑に事業の進捗が図れるよう、既に地籍調査の予算の倍増や人的拡充などに取り組んでいるところです。今後も精一杯の努力をしますので、なお一層のご支援とご協力、また国等への働きかけをお願いします。

また、県におかれましては、今年度より、近畿道紀勢線推進プロジェクトチームを立ち上げ用地買収の推進に取り組んでいただいております。感謝申し上げます。御浜町からも、早期に職員を派遣したいと考えています。

(知事)

近畿自動車道紀勢線については、平成 29 年 7 月の九州北部豪雨の被災状況を目にする度、平成 23 年に発生した紀伊半島大水害が思い出され、あらためて災害に強い道路の重要性を認識しています。

未事業化区間の新規事業化のためには、次の三つが重要です。

一つ目は、事業中区間の進捗を図ることです。これについては、今年度「近畿道紀勢線推進プロジェクトチーム」を立ち上げ、本格的に用地買収の推進に取り組んでいます。

二つ目は、投資効果の高い道路であることを国に示すことです。今後も、紀勢線が開通した際の医療・防災・地域産業で発現するストック効果を国に対して粘り強く訴えて行く必要があります。今年度は、

地元企業等と一体となって地元の声を届ける要望活動を予定しています。また、紀伊半島における広域ネットワークという視点からも和歌山県知事と協調した取組が効果的と考えており、10月4日には両県合同による「近畿自動車道紀勢線建設促進協議会」促進大会を開催します。

三つ目は、事業の実効性を高めることです。町においても、円滑な事業の実施を担保するために地籍調査等を進めていただいております。引き続きの推進をお願いします。

県としても、国に対して要望していく道路の中でも最重点道路のひとつとして取り組んでいきたいと考えています。

(2) 紀南病院の医師確保について

(御浜町長)

医師の確保、とりわけ専門医の確保については、困難な状況にあり、十分な診療体制が確保できていないのが現状です。

三重県におかれましては、専門医の確保につながる情報提供や助言など、効果的な支援を引き続きいただきますようお願いいたします。

また、南海トラフを震源とする巨大地震により、紀南地域で270人の重症者が出ることが県の予測として発表されていることから、災害発生時には紀南病院が地域医療の拠点となるべく、災害対応についても病院の総力をあげて取り組んでいるところです。さらに、今月22日に、紀南病院が災害拠点病院に指定された点についても、大変ありがとうございますと感謝を申し上げます。今後、災害拠点病院としての機能発揮に向けた体制整備を進めていきたいと思っております。

つきましては、今後とも、災害対応のための諸事業に対しても財政的支援を含めた各種支援をいただきますようお願いいたします。

(知事)

紀南病院の産婦人科について、県としては、これまで三重大学に対して医師の派遣を要請してきたところですが、医師の確保には至っていません。また、専門医についても、医師不足とあわせて、地域偏在、診療科偏在が課題となっています。

県では、これらの課題解消に向けて、医師修学資金貸与制度の運用など「中長期的な視点に立った取組」を通じ、医師確保対策を進めているところであり、今後、県全体の医師不足は一定程度改善していくものと期待しています。しかし、地域間、診療科目間の偏在解消には時間を要するものと考えています。

また、今後、開始が予定されている新たな専門医制度については、県内関係者による都道府県協議会において、地域医療確保の観点から議論を行い、専門医の確保に向けた環境整備を進めていきたいと考えています。一方で、若手医師等を確保するためには、魅力ある病院づ

くりが必要であることから紀南病院においても勤務環境改善の取組などを進めていただきたいと考えています。

さらに、県では、紀南病院内に三重県地域医療研修センターを開設し、自治医科大学の義務年限内医師を継続して派遣しているところであり、地域医療を担う医師の育成に取り組んでいます。

御浜町におかれましても、引き続き関係市町と連携して、紀南病院の産婦人科医師や専門医の確保に向けた取組を進めていただきますよう、よろしく申し上げます。

この度、紀南病院が災害拠点病院への指定をさせていただいたことから、平成 29 年度災害派遣医療チーム（DMAT）研修へ、優先して受講枠を調整させていただきました。今後も、県として、災害医療体制の充実・強化を図るため、皆さんと協力をしていきたいと思っております。御浜町におかれましても、紀南病院の災害拠点病院としての機能の発揮に向けた体制整備を進めていただきますよう、よろしく申し上げます。

（3）医療費の窓口無料化について

（御浜町長）

御浜町としましては、「若者定住対策」の一環として子育て支援事業を積極的に実施していますが、子ども医療費助成の効果がより発揮される窓口無料化については、実施すべきであると考えています。

国の波及増カットが一定廃止されたこの機会に、是非、三重県におかれましては窓口無料化の実施に向けて、積極的なリーダーシップで県下市町、県医師会、国保連合会などへの調整等にご尽力いただきますようお願いいたします。

（知事）

本県の子ども医療費助成制度は、平成 24 年から入院・通院とも小学校 6 年生まで支援対象を拡大するとともに、自己負担金の支払いを不要とし、後に全額が自動償還される仕組みとして、整備を行ってきたところです。この結果、本県における子ども一人当たりの子ども医療費助成額の比較では、全国で 4 番目に高い水準となっており、このことは、子育て支援に対する本県の姿勢を表していると考えています。

窓口無料化の実施にあたって、県としては、その政策目的を何にするのか、持続可能な制度運営及び県内 29 市町一斉導入が可能であるかの検討が重要であると考えており、現在、子どもの医療費に係る現物給付化の県内一斉導入について、導入目的、対象範囲、持続可能性、29 市町統一導入可能性などの観点から検討を行っているところです。今後、市町をはじめ関係団体に対して、県としての方向性をお示ししていきます。